



第 70 号
令和5年12月1日 発行
発行
埼玉県立がんセンター
発行責任者
病院長
影山 幸雄

基本“唯惜命”
理念

私達は生命の尊厳と倫理を重んじ、先進の医療と博愛・奉仕の精神によって、がんで苦しむことのない世界をめざします。

目次

- 脳神経外科科長兼診療部長就任のご挨拶……………1
- 心療内科科長兼診療部長就任のご挨拶……………2
- リレー・フォー・ライフ・ジャパン (RFLJ) 2023 in さいたま 参加報告……………3
- サイエンススクールについて / 埼玉県立がんセンター公式SNS始めました！……………4



埼玉県のマスコット コバトン

脳神経外科科長兼診療部長就任のご挨拶



脳神経外科科長兼診療部長

早瀬 宣昭

2023年4月より脳神経外科科長兼診療部長を拝命いたしました早瀬宣昭（はやせのぶあき）と申します。

私は昭和61年（1986年）に群馬大学を卒業し、脳神経外科に入局しました。一般脳神経外科

疾患の臨床経験ののち、2002年4月より埼玉県立がんセンターにて、脳腫瘍治療に専念してまいりました。このたび2023年楮本清史科長の退任をうけ、脳神経外科科長を引き継がせていただきました。

がんセンターにおける脳神経外科が扱う疾患は原発性脳腫瘍（脳から発生した腫瘍）と転移性脳腫瘍（がんが脳へ転移したもの）が主なものとなります。原発性脳腫瘍、特に、悪性脳腫瘍の手術治療に際しては、術中の神経モニター、ナビゲーション、蛍光ガイドなどを駆使し、脳機能保護と腫瘍摘出率向上の両立を目指しています。放射線治療に関しては、放射線治療科と協力し、強度変調放射線治療（IMRT）や定位放射線治療(SRT,SRS)など最適な方法で治療を行っています。良性腫瘍である髄膜種においては腫瘍血管塞栓を併用し、出血量を減じ、安全に腫瘍摘出術を行っています。下垂体腫瘍においては、群馬大学脳神経外科

のエキスパートと協力し経鼻内視鏡下手術を導入しています。転移性脳腫瘍におきましては、原発巣治療科と情報を共有し、患者さんのQOLの維持を目標に手術療法あるいは放射線治療、定位放射線治療など最適と思われる治療を提供しております。

当院は、がんゲノム拠点病院に指定されています。原発性脳腫瘍は希少がんといわれ、発生頻度は少ない疾患ですが、ゲノム解析により、標準治療ののちの治療選択肢を提案できる可能性があります。

神経疾患の多くは脳卒中に代表される緊急に対応すべき疾患ですが、脳腫瘍も神経症状の改善のために一刻を争う対応が必要で、がん救急（Oncology emergency）分野の疾患です。医療機関の皆様におきましては、脳腫瘍でお困りのことがありましたら、遠慮なく御連絡ください。迅速に対応いたします。

埼玉県立がんセンター脳神経外科は、県民の皆さまが、県外遠方の医療施設へ行くことなく、脳腫瘍全般の治療を、安全に完結して行えると自負しております。今後とも、皆さまに選ばれるよう、日々努力してきたいと考えています。埼玉県立がんセンター脳神経外科をよろしくお願いいたします。

心療内科科長兼診療部長就任のご挨拶



心療内科科長兼診療部長
稲田 修士

2023年7月から埼玉県立がんセンター心療内科に着任致しました稲田修士（いなだしゅうじ）と申します。心療内科というと「精神科と同じものじゃないの？」とお思いになる方も多いかと思えます。実際には心療内科は精神疾患を専門とする精神科とは異なるもので、ストレスによって発症したり、悪化したりする内科の病気（＝心身症）に対して、通常の内科的な治療に加えて心理療法や向精神薬を併用して治療していくという内科の一分野です。こころと身体の相互作用（＝心身相関）に着目して診療を行うことも心療内科の特徴の一つであり、心身症にとどまらず、精神腫瘍学や緩和医療との親和性も高い診療科です。

私は2005年に東京大学を卒業し、初期研修修了後、2007年から同大学心療内科に入局しました。入局後、心身症や摂食障害の診療と並行して、造血幹細胞移植を受ける患者さんの心理的なサポートにかかわる中で精神腫瘍学を学びました。2012年に大学院を修了後は、東京大学がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの特任助教として緩和医療（主に精神腫瘍学）の教育に携わるとともに、緩和ケアチームの一員としてこころのケアのみでなく身体症状の緩和についても習熟する機会を与えていただきました。2021年4月からは近畿大学の心療内科・緩和ケア科の講師として、心療内科での診療と緩和ケアチームの運営や活動に関与し、2022年10月からは緩和ケアセンターのセンター長代行と

して、がん患者さんの全人的苦痛の緩和の経験を積んでまいりました。

埼玉県立がんセンターでは苦痛の緩和を担う診療科としてすでに緩和ケア科、精神腫瘍科が活動し、多くの患者さんにサポートを提供しています。その中で新たに苦痛の緩和にかかわる部署として心療内科が開設されたことは、病院の基本理念にもある「がんで苦しむことのない世界をめざす」という精神によるものと勝手に想像しております。現在のところ、心療内科は緩和ケアチームの精神症状担当として、病棟を中心に活動を開始しておりますが、それ以外の部分でも患者さんやご家族、医療スタッフのニーズを満たしていけるように尽力してまいりたいと思います。

現在のところ、地域の先生方から直接ご紹介を頂く立場ではございませんが、「がんセンターなら治療だけでなく、その間のつらさも対処してもらえる」と安心していただけるような支援体制の一翼を担って参りたいと思いますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い致します。



リレー・フォー・ライフ・ジャパン (RFLJ) 2023 in さいたま 参加報告

腫瘍診断・予防科 山本 剛

リレー・フォー・ライフ・ジャパン2023埼玉(以下RFL)が、9月30日にさいたま市緑区農業者トレーニングセンター「緑の広場」で開催されました。1985年に一人の医師がトラックを24時間走り続け、アメリカ対がん協会への寄付を募ったことから始まるRFLは、現在世界30か国以上、日本国内50か所以上で開催されているイベントです。がん患者さんやそのご家族を支援し、地域全体でがん向き合い、がん征圧を目指すチャリティ活動であり、集められた資金は、がんの無料相談、新しいがんの治療法開発、若手医師の育成、がん検診受診率アップなどに活用されています。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、2020年と2021年は開催されず、2022年から再びリアル開催となって2年目になります。当センターは2013年からチームとして参加しており、会場内の「啓発テント」内で、啓発講演を開催しております。本年度は、「がんゲノム医療ってなにをするの?」というタイトルで私が、「大腸癌治療、最近のトピックス」として大腸外科科長の長寿寿矢先生が、「胆道がん薬物療法～この10年の進歩を中心に～」として消化器内科副部長の清水怜先生が、「乳がん薬物治療35年の進歩と最新情報」として乳腺腫瘍内科科長兼診療部長の井上賢一先生がそれぞれ講演を行いました。来場者の方々の真剣な眼差しでスライドを見ながら、ハンドアウトの欄外一杯にメモを取っている姿がとても印象的でした。各講演ではがんの治療を経験された方や現在治療中の方から多くの質問があり、講演後も多くの質問にお答えしている先生方をお見掛けしました。会場の雰囲気も相まって、病院ではなかなか聞きにくいことや、説明してもらっても十分に分からなかったことなどについての質問をされている来場者の方も多く、「モヤモヤしていた部分がスッキリした」などのご意見を聞くこともできました。野外のテントですので、風などの影響もありましたが、会場内にいる方々が足を止めて講演に見入っている姿も多く見ら

れ、イベントと一体感のある講演会だったと思います。私自身は今回が初めての参加で、想像していた以上に会場が活気に溢れていることに驚きましたが、これでも以前のような24時間開催だった頃より少し規模が小さいと聞き、これから徐々に以前の盛り上がりを取り戻していくことを祈ってやみません。来年もさらに多くのがん患者さんやご家族、当センターのスタッフが参加されることを期待しています。



*1階のホスピタルストリートにルミナリエバッグが飾ってあります。是非ご覧下さい。



サイエンススクールについて

臨床腫瘍研究所主任研究員 生田 統悟

研究所では、高校生対象のサイエンススクールを開催しています。今年は8月19日（土）に行われました。生徒への呼びかけには、先生方のネットワークを利用させていただきました。参加者18名のうち男子は2名で、圧倒的に女子が多いのが例年の特徴です。

テーマは、がん細胞の遺伝子解析実習です。培養肺がん細胞からDNAを抽出し、がん遺伝子の変異を検出することで、抗がん剤の効果予測を自分の手でやってみようというものです。はじめは神妙な表情でしたが、班ごとに研究室へ分かれ実験着を着て

ピペットを握ると、眼が変わってくるのがわかります。今年は高校の理科の先生や、また宮城がんセンターの研究所からも見学の方がいらっしゃいました。

実験の後は、結果をもとにして各自でレポートを作ります。実験の目的や原理、手順の一つ一つを理解してもらうには荷が重かったかもしれませんが、私たちも毎回反省することが多いのですが、若い人たちの芽を伸ばす手伝いをするのも、研究所の役割とと思っています。



埼玉県立がんセンター公式SNS始めました！

この度、埼玉県立がんセンターでは、当センターを皆様にとって身近な存在としていくため、令和5年8月から公式SNSを始めました。現在、X（旧Twitter）とYouTubeを運用しております。公式SNSを通じて当センターを知っていただくのはもちろんのこと、皆さまにとって少しでも有益な情報が提供できたらと思っております。

X（旧Twitter）では、写真を交えて当センターの出来事、最新情報やイベントの案内などをタイムリーに発信しております。投稿が途絶えることのないように、院内の各部署から積極的に情報発信をしております。

YouTubeでは、動画を通じて皆様に知っていただきたいことを発信しております。例えば、毎年開催しているがん治療の啓発と普及を目的としたイベント「埼玉県民のための『がんの集い』」の過去に開催した回のアーカイブを公開しております。

まだまだ始めたばかりですが、公式SNSを通じて少しでも当センターを身近に感じていただけたら嬉しいです。

図1及び図2のQRコードを読み取っていただくと、各SNSのページへ飛ぶことができます。

ぜひフォロー等していただき、チェックをお願いします！



図1「X（旧Twitter）のQRコード」



図2「YouTubeのQRコード」